

調印式に臨席の李登輝前総統



挨拶される黄崑虎総会長



調印式を終えて李前総統と園田理事長がにこやかに握手



黄総会長にお土産を手渡す柚原事務局長

台湾に咲いた河津桜

本会はこのたび、日台交流の一環として台湾に桜の苗木を寄贈することとなりました。そこでも、これまでの経緯と調印式についてご紹介します。

平成十五年（二〇〇三年）二月、NPO法人育桜会（園田天光^{あそだてんこう}理事長）と社団法人霞会^{すなわ}園田直^{すなわ}元外相夫人）と

館（久邇邦昭^{くわにくにあき}理事長）が静岡県の河津町を原産とする河津桜^{かづさくら}の苗木二百本を、台湾の李登輝^{りてんけい}之友会全国総会（黄崑虎^{くわんこ}総会長）総統府国策顧問）に寄贈しました。一年間の仮植え期間を経て、台北の陽明山、新竹市、桃園・大溪にある李登輝前総統の別荘の三カ所に移植したところ、本年二月、見事に開花しました。

本会を介して育桜会に桜寄贈の依頼があり、再び寄贈することとなった次第です。すでに李登輝之友会全国総会は桜を植樹する場所として、農業委員会（農水省に相当）や文化建設委員会（文化庁に相当）などの協力支援の下、台湾大地震の震源に近い南投県の九九峰に七〇ヘクタールもの土地を確保して受

桜募金にご協力を！

日本から台湾に桜の苗木を贈ろう!!

常務理事・事務局長

柚原 正敬^{ゆはら まさあき}



新竹市に咲いた河津桜

枝ぶりはまだ幼いものの、花が大きく少々色の濃い河津桜は台湾の風景に見事に溶け込み、素晴らしい光景だったそう、李登輝前総統も殊のほか喜ばれたそうです。

そこでこの三月、黄崑虎総会長から

本会を介して育桜会に桜寄贈の依頼があり、再び寄贈することとなった次第です。

け入れ態勢を整えています。寄贈される桜は、ここに造られる「南投大地芸術の森」の並木とされるそうです。

十月五日には、台北市の国賓大飯店において李登輝前総統が「見証人」（立会人）として臨席されて桜寄贈の調印式が行われ、育桜会と日本李登輝友の会が来年の一月か二月、河津桜の苗木千本（育桜会・百本、本会・九百本）を寄贈し、将来的に日台が力を合わせて一万本にしようという内容の合意書に、李前総統、園田理事長、黄総会長の三者が調印しています。

本会からは、小田村四郎会長の名代として、事務局長の私が出席しました。台湾政府から農業委員会主任委員（農水大臣に相当）と文化建設委員会主任委員（文化庁長官に相当）が出席、南投県からも副県長（副知事に相当）が関係来賓として出席し、また、交流協会台北事務所の池田維所長（駐台湾大使に相当）や、李前総統夫人の曾文恵さんをはじめ、蔡焜燦・台北市李

登輝之友会会長、黄昭堂・台湾独立建国聯盟主席、呉阿明・自由時報社長、陳楷模・台湾大学名誉教授など、錚々たる方々が出席されました。

調印式では、まず黄崑虎総会長が流暢な日本語で「この台湾の地に、台日の親善友好関係を象徴するものとして日本の桜一万本を植え、その桜の木の下で、台湾人と日本人がともに花見をするという光景をぜひ実現したいと願っております」と挨拶され、桜植樹を成功に導こうとする意気込みがひしひしと伝わってきました。

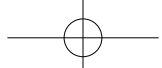
次に園田理事長が「桜の木を贈呈するのは娘を嫁にやるようなもので、桜の苗木が見事に台湾に根を張っている光景を新竹で見、今度、植樹する風光明媚な九九峰も見せていただきました。このような熱意あふれる歓迎を受け、差し上げる河津桜が台湾で見事に育ち、両国間の平和友好に貢献することができると確信するに至りました」と寄贈の弁を述べられました。

また、李登輝前総統も日本語で、桜の植樹を台湾の国造りと結び付けて挨拶し、最後に「私はこのたびの桜の苗木を台湾全土に広げることにより、台湾と日本の親善友好の基礎がいつそう固まるものと信じ、一日も早く日本の方々と一緒に台湾の美しい桜の花見を満喫したいと念願しております」と述べられています。（四頁参照）

■南投県知事自ら九九峰を案内

園田理事長のご挨拶にもありましたが、この調印式のため育桜会と本会は調印式前日の十月四日から訪台し、桃園空港から南投県・九九峰に近い台中市に直行しています。

本来なら黄崑虎総会長は、翌日の南投県長訪問から合流する予定だったのですが、ホテルに出迎えていただき、またこの夜、台中市李登輝之友会（黄漢卿会長）の皆さまが歓迎晩餐会を開いてくださいました。この晩餐会は、台湾少年工出身の何春樹氏が司会を



台中市李登輝之友会の歓迎晩餐会
(右から何春樹氏、何敏豪議員)



桜を植樹する南投県九九峰に張られた歓迎の横幕



九九峰で挨拶する林宗男・南投県長



新竹市李登輝之友会の張会長が記念の盾を贈呈

つとめ、その甥で立法委員（国会議員に相当）の何敏豪氏も駆けつけられました。また、翌日伺う新竹市からも、南投県から道案内をすることので、わざわざ新竹市李登輝之友会（張震天会長の楊根棟副会長と柯金柱氏の二人が合流されたのには恐縮しました。

翌五日前、黄総会長の案内により南投県庁に林宗男県長（県知事）を表敬訪問。林県長は日本に留学経験があり、日本語で「力を尽くして桜を咲かせ、桜を通じて南投県と日本の県で姉妹県交流したい」と挨拶されたことに感激したのはいうまでもありません。

その後、林県長自ら、桜の苗木を植

える九九峰まで案内してくださいました。現地に着くと、なんと椰子の木の幹を利用して歓迎の横幕が張られていたのには驚かされるとともに、感激の一瞬でもありました。ここでは、南投県政府担当の鄭新興・流域管理局局長がめくり板を使い、丁寧な土壤や気候について説明していただきました。南投県ではすでに桜を管理する技術者用の宿舎も建設しているそうです。

昼食後は一路、新竹市へ。新竹市では陳全桂・副市長が出迎え、河津桜が植えてある新竹市立動物園内の「米豪日姉妹都市館」でセレモニーを行いました。新竹市は李登輝之友会の皆さん

を中心に桜を大切に育てています。日本から贈られた桜であることを記した看板を園内の目立つところに立てていて、どこかの国とは大違いです。

この後、急いで台北市内へ戻り調印式に臨んだ次第です。

*

本会は、この桜寄贈を成功に導くことで日台交流の実を上げるべく、台北駐日経済文化代表処のご後援の下、十一月三日を期して「桜募金」を開始しました。ご協力のほどよろしくお願います。募金要綱につきましては、本誌の裏表紙をご覧ください。また本会ホームページでも掲載しています。